霧の街

夏に太平洋からの暖かい空気が北上し、北海道東部のより涼しい海岸線にたどり着くと、霧ができます。釧路は、夏に霧の日が多いため「霧の街」として知られています。釧路は大きな港であり、視界が悪い状況は航海にとって危険です。この理由から、1891 年に釧路埼灯台が建設されました。

当初、この灯台には、霧の際に警告音を出す仕組みがありませんでした。しかし、1922 年 7 月、皇太子裕仁（1901～1989 年。後の昭和天皇。天皇としての在位期間は 1926～1989 年）が、よくある濃霧が発生している際に釧路を訪れ、灯台に霧笛を設置するよう市に勧めました。霧笛は 1925 年に完成しました。ラッパの形の部分は「吹鳴器」と呼ばれており、圧縮した空気を膨らませて低周波数の警告音を鳴らしていました。吹鳴器は、1962 年に電気によるものに置き換えられました。電気による霧笛は、2010 年に廃止されました。船の航海設備の進歩により、霧笛は不要になったのです。